



「窓」に寄せる思い
「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。



福島県教育センター

「あこがれ、ひとり、ひろげる姿に」

所長 吉川 武彦

『あこがれ、ひとり、ひろげる姿を求めて』

以前、勤めた小学校で、チームの研究テーマとして掲げた言葉です。当時、研究教科を音楽としており、先輩や同僚と求める子供の姿を熱く語り合ったのを覚えています。

『あこがれ』については、「音にあこがれる姿、音楽にあこがれる姿、演奏にあこがれる姿、上級生や教師の演奏にあこがれる姿、それだけでなく、下級生が懸命に歌って踊る姿にあこがれる姿もあるよね」『ひたる』は、「音や音楽にどっぷりとひたる姿、友達や専門家の演奏にひたる姿、活動自体にひたっている姿もいいよね」『ひろげる』は、「本気で取り組んだら誰かに聴いてもらいたくなる姿、思いや願いを広げていきたい姿、表現し伝えたい姿も目指したいね」等々の思いとともに、時々この言葉を思い出します。そして教育センターに着任して5ヶ月、自分自身や所員、そして県内の先生方と目指したい姿でもあるな、と考えています。

当センターでは、福島県教育委員会の重点施策等を踏まえながら「新たな教職員の学び」の姿を実現し、教員の資質・能力の向上と学校の教育力向上に資するよう、

- 1) 教職員のキャリアに応じた資質・能力の向上に資する研修の充実
- 2) 今日的な教育課題に対する調査・研究の推進
- 3) 児童生徒のよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える指導の推進
- 4) 教育情報の収集・発信や教職員の研修機会拡大に向けた支援の充実

等に努め、学校教育を総合的に支援し「福島ならではの教育の推進を目指しております。

特に現在は、前年度所内で立ち上げた「『新たな教職員の学び』推進委員会」が中心となり、「そもそも『新たな教職員の学び』とは？」『研修観の転換』とは？」という原点も問い返しています。所員全員が自身で考え、仲間とともに対話し、研究や研修にどのようにいかせばよいか熱心に語り合い悩みながら進んでいるところです。

『研修観の転換』については、研修を受講する先生方がより自身の資質・能力を向上できるように、こういった研

修内容、研修展開にすればよいか皆で考え実践しています。その一つを挙げれば、研修の最初に組む「イントロダクション」と最後に組む「リフレクション」です。まず研修者に「本研修に臨むにあたり、自身の問いは何か？」と投げかけ、研修者は講話や演習、協議等を経て、最後に「本研修での気づきや学びは何か？」を振り返ります。研修者からは、「研修に目標をもって臨むことができた」「課題をもって臨み、解決に向けて意識的に取り組めた」「研修の中で自分事化でき、今後もその意識をもち続けたい」等の感想をいただき、励みとなっています。

私自身、7月中旬に3日間、独立行政法人教職員支援機構(NITS)の教育行政リーダー研修会に参加しましたが、じっくりと自身の仕事や組織について省察するとともに、立場を同じくする仲間と同じテーマで話し、異なる見方・考え方から自身の考えを捉え直すことができ、大きな学びとなりました。

改めて子供たちが学び続けるのと同様、教職員も管理職も行政職も、学び続けることが大切だと感じました。

子供たちから『あこがれ』をもたれる教員になりたい。強みも弱みも見せながら、一緒に学ぶ存在でありたい。

子供たちと学校生活に『ひとり』たい。学ぶ楽しさ、一緒に悩むことを含め、生きる喜びを味わいたい。

子供たちの学び、子供たちとの学びを『ひろげ』たい。未来を担う子供たちの夢や希望を育てていきたい。

「子供たち」という主語を「教職員」「管理職」「教育行政職」等に置き換えても、同じ姿を求めていきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

最後に紹介です。当センターのHPには数多くの取組を掲載しています。特に令和7年1月作成の『『学びの変革』ガイド』は、子供たちが学び続けるためのポイントを集約、即活用できます。また「アラマナ通信」(「新たな教職員の学び通信」の略称)には、所員や研修者が学び続けている姿を紹介しています。学校での研修や諸機関での研修会等で参考にしていただければ幸いです。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター
TEL 024-553-3141 (代表)
URL <https://center.fcs.ed.jp/>

〒960-0101 福島市瀬ノ上町字五月田16番地
FAX 024-554-1588
E-mail center@fcs.ed.jp

学力調査等へのデータ科学の活用と効果的な授業改善の在り方

— 教育データの段階的活用と教育的課題への実践的アプローチ — (第一年次)

エビデンス(根拠)に基づいた教育施策の推進のために・・・

令和5・6年度の2年間「『学び続ける力※』」を高める学習指導の在り方」という研究主題の下、「学び続ける力」を切り口に調査、実践、観察を通して、児童生徒のデータから証拠を収集して提示するという実証的な手順で研究を進めてきました。研究成果として、県内の教員が「学びの変革」に挑戦する、その背中を後押しできるような授業改善の視点を提供する「『学びの変革』ガイド」(図1)を発信しました。この研究による今後の課題は以下の2点が挙げられます。

※1 詳細については、福島県教育センター紀要 Vol.54



図1 「学びの変革」ガイド

課題

- ① 「『学びの変革』ガイド」を授業改善に活用できるように、具体的な活用の仕方を周知する
- ② エビデンス・ベースドな教育実践を推進し、学校現場でできる教育データ活用の在り方を発信する

福島県では、令和7年度「学びの変革推進プラン」における施策1「『学びの変革』によって資質・能力を確実に育成する」の主な取組の一つとして「エビデンス(根拠)に基づいた教育施策の推進」が掲げられています。令和5年度「学びの変革推進プラン」点検・評価結果報告によると、全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育活動の改善や指導計画への反映を行っている学校の割合では、小・中学校ともに「行っている」と回答した学校は90%以上となっています。しかしながら、「よく行っている」と回答した学校の割合は、小学校で26.0%、中学校で21.0%、「行っている」と「よく行っている」との差が大きいことが分かります(図2)。このことから、継続的な検証改善サイクルの確立に課題があると推測されます。

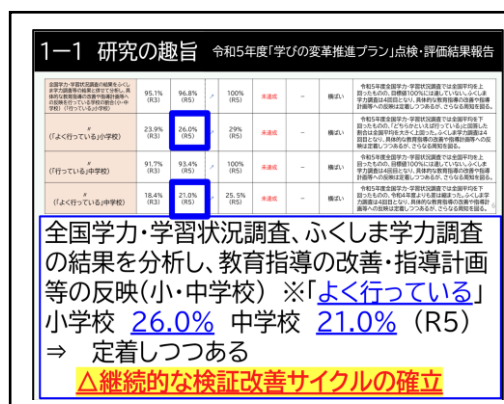


図2 福島県の実情

本年度の研究内容 — 教育データの段階的活用と教育的課題への実践的アプローチ —

本研究の目的は、「学校現場でできる教育データ分析と、その活用を通じた効果的な授業改善の在り方、その継続的な検証改善サイクルの確立の方法を明らかにする」(図3)ことです。

そこで、各学校・教員が主体となって、教育データ分析を授業改善に生かすことができるようにするために、研究協力校との実践を通して、次のような手立てを講じていくこととしました。

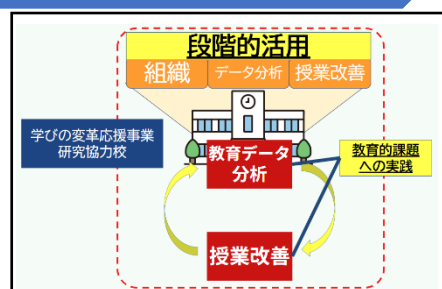


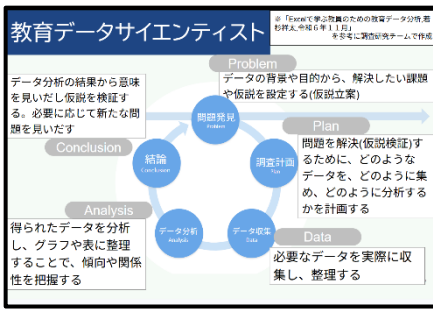
図3 研究構造図

教育データサイエンティストの育成

【「組織」の視点として】

教育データを分析し、具体的な問題解決や効果的な意思決定につなげる、データに基づく教育活動を行うことができる教職員の育成を行います。この教職員を中心に、研究協力校で実践を広めていきます。

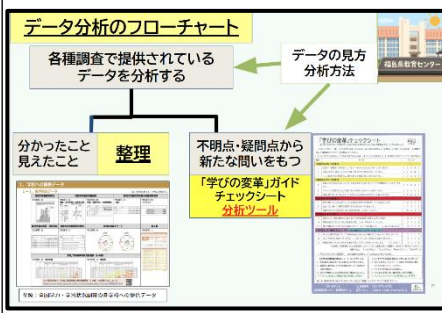
※資料参照「Excel で学ぶ 教員のための教育データ分析、編著若杉祥太」



分析ツールの開発と活用

【「データ分析」の視点として】

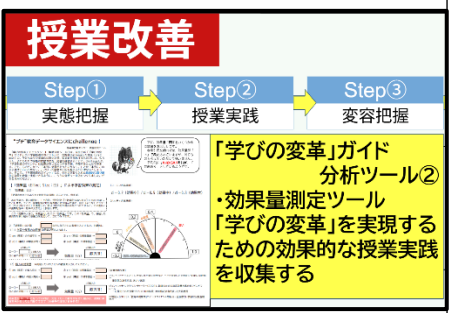
データ利活用の目的と活用するデータについて、研究協力校の希望や実態に合わせて、分析を行います。国や県から提供されている資料についての研修を行ったり、新たな視点でデータを捉えることができる分析ツールを開発し、活用したりしています。



3ステップの授業改善モデルの収集

【「授業改善」の視点として】

研究協力校での授業実践が「実態把握⇒授業実践⇒変容把握」の3つのステップで行うことができるように支援します。さらに「学びの変革」ガイドを用いて、授業の手立てが有効であったか『効果量』を測定し、学習効果の高い授業実践を収集します。



研究の実際

「『学びの変革』応援事業」の実践校及び、研究協力校としてご協力いただいている2校での実践を紹介します。

鮫川村立鮫川小学校

現職教育の研究主題「自ら考え主体的に学ぶ児童の育成」の実現に向けて、アンケート調査の分析をもとに、「学びの個別最適化」や「新たな問いをもち、発展させる振り返り」等の手立てを軸に、授業改善に挑戦しています。

現職教育のアンケート調査では、求める子どもの姿を基に、質問項目を再構成したり、分析結果を視覚化(図4)したりすることで、子どもの実態を明確にしています。今後、データ分析から得られた成果をもとに授業実践に取り組みます。

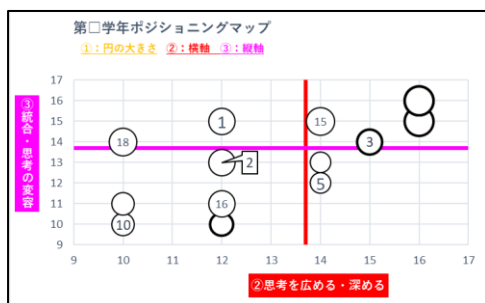
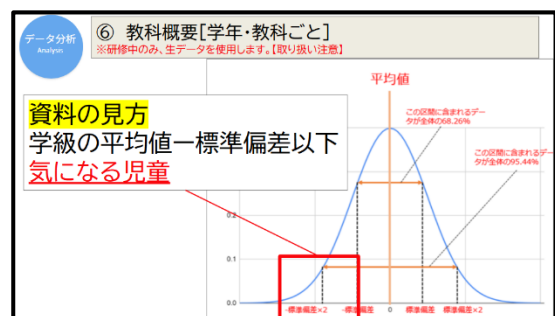


図4 回答状況を視覚化したポジショニングマップ
※掲載用に、架空のデータを使用しています

田村市立美山小学校

子供たち一人一人の確かな資質・能力の育成に向けて、市で実施している「田村市学力調査」のデータの分析を基に、子どもたちの実態を把握して、授業改善に挑戦しています。

田村市学力調査の分析では、教職員同士の対話を通して、提供されている資料の見方を深めたり、当センターの支援により、新たな視点を発見したりしながら、データ分析に取り組みました。今後は、田村市学力調査の分析結果と他の学力調査等の結果とを関連付けて分析し、得られた結果から授業実践に取り組みます。



令和7年度

専門研修・自主講座の紹介(1)

図工・美術／高校書道

手を動かしたり、身体を動かしたり・・・実感を得ながら気付きを得ていただける講座を展開します

専門研修

鑑賞と関連した美術の表現指導法講座《中高特支》

10月9日(木)・10日(金)の2日間実施します。2日間じっくりと作品と向き合いながら授業について考えることができる貴重な講座です。鑑賞と表現を相互関連させることで、より深い学びに繋がれることが期待できます。今年度は郡山女子大学短期大学部准教授の黒沼令氏を講師にお招きし、彫刻の作品の制作演習や鑑賞を行いながら、立体表現作品に関する授業づくりや指導法について学びます。



つくりだす喜びを味わう図画工作の授業デザインと指導法講座《小特支》



10月22日(水)に実施します。講師に東京学芸大学准教授の笠原広一氏をお招きし、子どもたちの「わくわく」「やってみたい」を引き出し、つくりだす喜びを感じられる図工の授業づくりについて学びます。

【前年度参加者の声】

- 演習を通して「やってみることで見えてくる・わかってくる」を体感することができました。
- 子ども1人1人が自分なりのイメージをもって、活動を通して「納得できる」作品を創造していくことができる授業をつくっていきたい。

図画工作・美術の対話で深める鑑賞指導法講座《小中高特支》



福島県立美術館



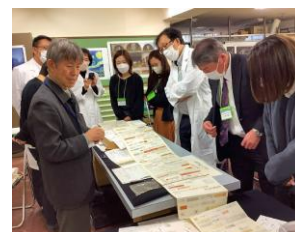
11月7日(金) 福島県立美術館を会場に実施します。美術館の所蔵作品を前にして、鑑賞教材の活用方法や、対話型鑑賞の方法について実践的に学びます。地域の作家、美術作品について学芸員から話を聞けるのも魅力の講座になっています。

【前年度参加者の声】

- アートキューブを使った常設展の鑑賞では、先生方の様々な感想や作品の見方を知ることができ、大変参考になりました。

発想と表現力を高める書道の指導法講座《高特支》

10月24日(金)に実施します。書画家の長嶋芙蓉氏を講師にお招きし、水墨画の表現と鑑賞について学んでいきます。墨を使った幅広い表現に触れながら高校の書道の授業でどのように生かし、展開できるか、実際に水墨画の作品制作を体験しながら探っていきます。



※R5講座風景

自主講座

週休日に開催する講座になります 隔年でいわき市立美術館でも実施しています(R8 実施予定)

美術館でアートを楽しむ鑑賞講座 in 郡山市立美術館《小中高特支》

9月27日(土)

- 郡山市立美術館とコレクションの魅力
- 感じ取り味わう能動的な鑑賞につなげるために
- 美術館作品鑑賞フィールドワーク(企画展・常設展)

表現と鑑賞を楽しむ図画工作・美術講座 《小中高特支》

11月29日(土)

- 表現と鑑賞を相互に関連させた指導
- 「思考力、判断力、表現力等」を高める表現と鑑賞の視点
- 主体的・対話的で深い学びに向けた効果的なICT活用

※美術の講座の写真は前年度の講座風景になります



専門研修・自主講座の紹介(2)

理科／放射線・防災教育



高等学校理科観察・実験講座

7月16日(水)と8月19日(火)の2日間にわたり、「高等学校理科観察・実験講座」が教育センターで実施されました。物理・地学・化学・生物の各領域に分かれて、観察・実験の方法や指導上の留意点を学びました。実際の実験を通して授業における安全管理や指導法を確認することで、科学的な探究を促す資質・能力の育成に向けた実践的な知識を得る研修となりました。



科学的に探究する力を育成する理科授業づくり講座

7月17日(木)、教育センターで「科学的に探究する力を育成する理科授業づくり講座」が実施されました。筑波大学の遠藤優介先生による講義・演習を通して、探究的な学習活動の在り方や評価の視点を学びました。参加者は持参した指導案を基に協議を行い、資質・能力の育成につながる授業構成の工夫について理解を深めました。理科教育における探究活動の充実を目指す実践的な研修となりました。



放射線・防災教育指導力向上講座

8月21日(木)、コミュタン福島で「放射線・防災教育指導力向上講座」が実施されました。放射線教育・防災教育に関する講義や施設見学を行い、後半は授業構想を作成・協議しました。授業や学校行事における指導内容を具体的に構想することを通して、放射線や防災に関する教育を学校現場で充実させるための実践的な力を高める研修となりました。



基礎から学ぶ理科実験入門講座

10月25日(土)、教育センターにおいて新設の自主講座「基礎から学ぶ理科実験入門講座」を実施します。本講座は小中高の学習のつながりを意識し、物理・化学・生物・地学の基礎的な観察・実験を扱うものです。じっくりと教材研究に時間かけることで、教員が十分な時間を確保し、教材に向き合うことで基礎から学び直す機会とし、幅広い分野の理解を深めることをねらいとしています。今後の授業改善や生徒の主体的な学びを支える実践に資することが期待されます。



長期研究員の研究紹介

当センターの13名の長期研究員は、学校教育の今日的課題について理論的、実践的な教育研究を行っています。年度末には研究の成果を発信しますので、県内の先生方の実践にぜひ活用していただきたいと思います。今回は、その研究内容を紹介します。

国語科

研究主題 (R7・R8)

「考えを適切に表現する力」を育成する
小学校国語科授業の在り方
ー「書き方テクニック」の作成・活用・更新を通してー

大谷 桃子(二本松市立東和小学校)

「書くこと」領域において、自分の考えを分かりやすく伝えるための言葉や表現等を整理した「書き方テクニック」を児童とともに作成し、活用と更新をすることで、「考えを適切に表現する力」の育成を目指します。



国語科

研究主題 (R7)

「文学的な文章を表現の仕方に着目して読む力」
を育む高等学校国語科授業の在り方
ー「読む視点」に基づいた問いづくりを通してー

七海 里沙(ふたば未来学園中学校)

問いをつくることを通して文学作品の表現を吟味し、考えたことを解説文にまとめる学習を行うことで「文学的な文章を表現の仕方に着目して読む力」の育成を目指します。



社会科

研究主題 (R7・R8)

社会への関わり方を選択・判断する力を高める
小学校社会科学習指導の在り方
ー社会的事象を自分事として捉え、選択・判断の
根拠となる知識を構築する過程を通してー

山田 美穂(二本松市立二本松南小学校)

学習で得た知識を関連付けて理解を深め、根拠をもって社会への関わり方を選択・判断する力を高めることを目指します。



算数科

研究主題 (R7・R8)

「数学的な表現を用いて説明する力」を育成する
小学校算数科授業の在り方
ー表現活動の「柔軟・関連・具体」に
重点を置いた単元デザインを通してー

渡辺 峻大(西郷村立小田倉小学校)

柔軟・関連・具体という説明の視点を基に、言葉や図、式等を適切に用いて、見いだしたことや思考の過程、判断の根拠などについて筋道を立てて伝える力の育成を目指します。



数学科

研究主題 (R7・R8)

「事象を論理的に考察し表現する力」を高める
中学校数学科指導の在り方
ー問題解決の過程を説明し伝え合う活動を通してー

寺島 大地(相馬市立中村第二中学校)

問題解決の見通しをもち、解決につながる根拠を明らかにし、数学的な表現を選び関連付けながら、問題解決の過程を説明し、伝え合う活動を行うことで、論理的に考察し表現する力の育成を目指します。



数学科

研究主題 (R7)

「批判的な思考力」を育む高等学校数学科
学習指導の在り方
ー問題発見・解決・振り返りの過程を協働的に行う
授業デザインを通してー

小針 伸吾(原町高等学校)

様々な視点から事象を捉え、問題を発見し、数学的表現や解決の方法を多面的に考察し、得られた結果の妥当性を議論・評価するといったプロセスを重視した授業を行い、「批判的な思考力」の育成を目指します。



理科

研究主題 (R7・R8)

「考察する力」を育成する小学校理科学習指導
—予想・方法・結果のつながりを可視化する
学習活動の工夫を通して—

藤田 大智(泉崎村立泉崎第二小学校)

児童が予想・方法・実験のつながりを意識し、見通しをもって問題解決の過程に取り組むことを通して、予想と実験結果を照らし合わせて考察する力の育成を目指します。



理科

研究主題 (R6・R7)

「科学的に探究する力」を育てる
中学校理科指導の在り方
—「妥当性の視点」を用いた探究活動を通して—

安部 賢(白河市立白河中央中学校)

実験結果を捉える視点を「妥当性の視点」として生徒と共有し、生徒がその視点をを用いて実験結果を確認したり、対話したりすることを通して「科学的に探究する力」の向上を目指します。



理科

研究主題 (R7)

「原理・法則を活用する力」を育成する
高等学校物理の指導の在り方
—事象を捉える「視点」を基に、少人数で科学的に課題を
解決する過程を通して—

根本 遥加(船引高等学校)

実験・観察から事象を捉える「視点」をつくり、少人数でも科学的に課題を解決する過程を通して、「原理・法則を活用する力」の育成を目指しています。



英語科

研究主題 (R6・R7)

相手の発話に応じて話す力を高めるための
中学校英語科学習指導の在り方
—聞き手と話し手の役割に着目した対話の工夫を通して—

石井 愛(福島市立信陵中学校)

やり取りの目的や場面、状況等を明確にした学習課題を設定し、聞き手と話し手の役割を明確にし、対話や省察を行うことができるようにすることで、相手の発話を受け止めながら対話を継続・発展させる力の育成を目指しています。



英語科

研究主題 (R7)

「論理性に注意した文章を書く力」の育成を目指す
高等学校英語科学習指導の在り方
—領域を結び付けた段階的な指導の工夫を通して—

三室 佳世(平工業高等学校)

構成や表現に気付かせる読みの活動、思考ツールによる展開の可視化、振り返りの工夫を通し、議論の論旨が一貫している文章を書く力の育成を目指しています。



教育相談

研究主題 (R7・R8)

中学校小規模校における安心できる学級集団を
育む指導の在り方
—SELにおける基礎的社会的能力の向上を図る
指導・支援を通して—

風間 達則(柳津町立会津柳津学園中学校)

SELの基礎的社会的能力を向上させる指導・支援を通して、小規模校の課題である人間関係の固定化を改善し、すべての生徒が安心できる学級集団を育むことを目指します。



教育相談

研究主題 (R7)

高校生における援助を受け入れる意識を育む
指導の在り方
—自己の「サポート」への気付きを促す活動を通して—

渡辺 恵美(本宮高等学校)

自己を支える人やもの、場所などの「サポート」への気付きを促す活動を通して、援助を受け入れる意識を育むことを目指しています。



※ 学校名は、所属校(研究協力校です。)

紹介した長期研究員による各研究の詳しい内容
につきましては、令和8年3月に発行する

「令和7年度研究紀要第55集」を御覧ください。

当センターのWeb サイト

(<https://center.fcs.ed.jp/>) から

御覧いただくことができます。



令和7年度福島県教育研究発表会

～ 明日の福島教育をつくる ～

令和7年11月20日（木）

9:50～16:00 開催

集合形式とオンライン形式を組み合わせ
て実施します。



趣旨 本県学校教育の向上に資するため、県内公立学校教員の優れた教育実践・研究及び当センターの教育実践・研究の成果の発表と意見交換等を行う。

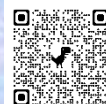
内容

〔研究発表〕：学習指導、教育相談、情報教育等について、県立高等学校及び当センターによる研究発表を行います。

〔実践発表〕：「ふくしま教育創造コンソーシアム」として小学校、中学校及び義務教育学校が発表を行います。

〔参加方法等〕

詳細については、当センターWebサイト「福島県教育研究発表会」をご覧ください。



研修観の転換に伴う「新たな教職員の学び」

当センターでは、第7次総合教育計画のもと、研修観の転換に向けて取り組んでいます。

令和7年度の取組については当センターWebサイト『「新たな教職員の学び」取組サイト』から随時発信しています。校内研修等を企画・立案される際に「新たな教職員の学び」の視点としての参考にしていただければと思います。



カリキュラムセンター事業

カリキュラムセンターは、県内の公立学校の先生方や学校から、日常の教育活動でお困りのことについて相談を受け、様々な支援を行う窓口です。

カリキュラム全般にかかわる相談受付や教職員研修講師派遣の手続きについては、当センターWebサイトをご覧ください。



【お問い合わせ先】

福島県教育センター 総合企画チーム

TEL 024-553-3193 Email: center-kikaku-gr@fcs.ed.jp

